

生誕100周年記念

# 小林邦一展

ひたむきに画道へ

《二重像》 1942年 創元賞

Barika Museum, Torii City  
丸山  
晚霞  
記念館

2018年4月28日(土)～5月20日(日)

東京展 2018年6月25日(月)～7月1日(日) 東京芸術劇場ギャラリー2

■〒389-0515 東御市常田 505-1 東御市文化会館内 ■TEL 0268-62-3700 ■入場無料 ■開館時間 9:00～17:00 ■会期中無休

※丸山晚霞常設展は、入館料200円



昭和初期 谷中を描く小林邦二

## 生誕 100 周年展にあたり

小林邦二は 16 歳で苦学の道を進み、阿以田治修に師事した。天才少年として彗星のごとくその名を馳せ、その画道は順風満帆であるかのようにあったが、自らその道と決別し、孤高の道を選んだのである。

表情のない人物、ねじれた空間で描かれた風景など、初めて小林邦二の作品と出会う人は違和感を覚えるかも知れないが、八木義徳（第 18 回芥川賞受賞作家）は、「邦さんの絵には土性骨がある。しぶとい頑固さがある。朴直な野生がある。純潔なナイーブさがある。これは邦さんの絵の性格であると同時に、いやむしろ、小林邦二という人間そのものの性格だ。だから邦さんはけっして美しい絵を描こうとはしない。物の「真実」を掴もうとする。この場合、真実とは邦さんにとっては、そのもの自体に内在する固有の「美」のことだ。その美を邦さんは辛抱強く、信州人特有の忍耐と粘りと執拗さをもってすこしずつ徐々に、しかも確実に掌のなかに握り込もうとする。だから邦さんの絵は、観る者にまずなによりも「誠実」を感じさせる。誠実これこそが美神の祭壇への最短距離であることを案外にもひとは見逃す。彼らは才能という曖昧不定な言葉に安易に逃避する。しかも彼らは他人の才能には決して責任を持たぬ。」と讃辞を送っている。

本展では、長年にわたり父・小林邦二を調査、顕彰している小林一英氏の研究を通じて、小林邦二が歩んだ「ひたむきな画道」を展観する。



《自画像》 1935 年



《少女》 1934 年



《姫子沢》 1942 年



《手を組む》 1977 年



《裸婦》 1985 年



《赤い裸婦》 2005 年

## 小林邦二（こばやし・くにじ） 1916～2010

現東御市田中生まれ。16歳の時、画家を志し上京。兄の援助を受け、また自らも苦学しながら、太平洋美術学校選科で学ぶ。1934年阿以田治修に師事、太平洋画会展入選を機に東光会展、二部会展、春陽会展などに入選し、注目を受ける。42年創元会展《二重像》が創元賞受賞。44年応召、部隊で八木義徳、深田久弥と知り合う。48年自由美術家協会に出席（63年退会）。54年国税庁職員を辞し、画家一筋の道を選ぶ。64年、主体美術協会の創立に参加するも翌年退会。以後無所属を貫く。長野県を中心に発表を続け、晩年は上田市にアトリエを構え制作。2010年死去。享年 94 歳。

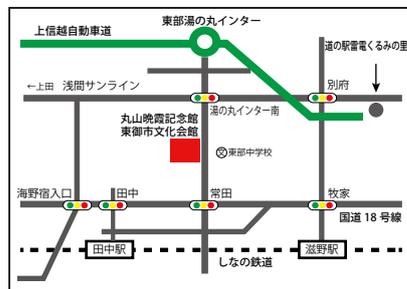
## ■施設情報、開館案内

### 丸山晩霞記念館

〒389-0515 長野県東御市常田505-1  
TEL 0268-62-3700 FAX 0268-62-3262

車：上信越道東部湯の丸インターから 2 分  
鉄道：しなの鉄道田中駅下車。徒歩 15 分

丸山晩霞記念館常設展は入館料 200 円



オープニング  
ギャラリートーク「画家・父 小林邦二」4月28日(土) 14:00

ゲスト：植草学氏（信濃毎日新聞編集委員）  
小林一英氏（小林邦二長男）

画家・小林邦二を、長年にわたり信州の美術家取材している植草氏の視点で、長男の小林一英氏が父・小林邦二について皆さんに紹介いたします。予約不要、どなたでもご参加いただけます。